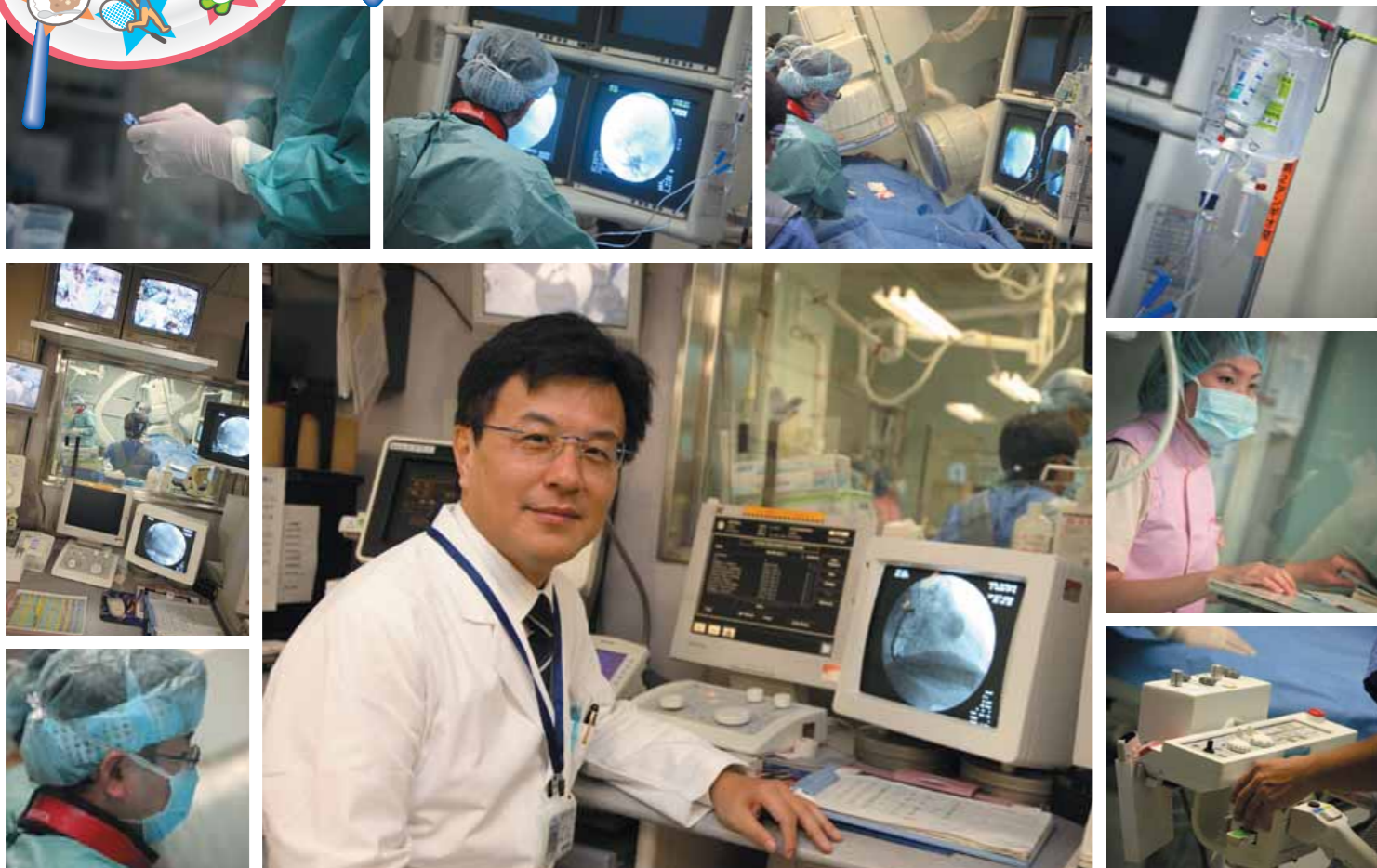




飽食の時代、あなたは大丈夫？

放置するな！「メタボリックシンドローム」



三重大学大学院医学系研究科・教授
伊藤 正明 Ito, Masaaki
 [URL] <http://www.medic.mie-u.ac.jp/naika1/>



メタボリックシンドロームの診断基準

メタボリックシンドロームは、ウエスト周囲径の基準を超えており、かつ他の選択項目のうち2項目以上を満たしている場合に診断されます。



ウエストの正しい測り方
 立った姿勢で軽く息を吐き、おへその高さの位置で測る

必須項目

内臓脂肪蓄積
 ウエスト周囲径 男性85cm 以上
 女性90cm 以上



選択項目 (以下から2項目)

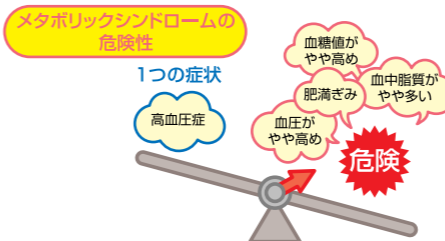
中性脂肪値 150mg/d 以上
 かつ/または
 HDLコレステロール値 40mg/dL 未満

最大血圧 130mmHg 以上
 かつ/または
 最小血圧 85mmHg 以上

空腹時高血糖 110mg/dL 以上

増加の一途をたどる疾患群の代表「生活習慣病」。そして、生活習慣病が引き起こす「動脈硬化」の進行に、内臓脂肪型肥満が密接に関わることがわかってきました。内臓脂肪の蓄積と、糖代謝異常、脂質代謝異常、高血圧などが重複し、動脈硬化になりやすくなった状態を『メタボリックシンドローム』とよび、治療の対象となっています。

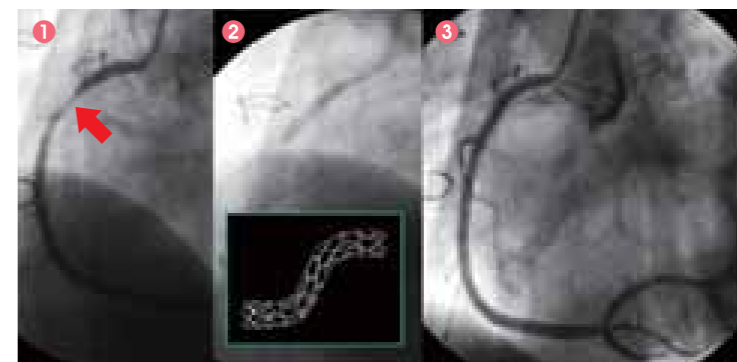
動脈硬化性疾患は、癌とともに日本の二大国民病のひとつです。なかでも、虚血性心疾患(心筋梗塞、狭心症)は動き盛りに突然発症し、死亡率も極めて高く、本人、家族はもちろん社会にとっても大きな損失となります。



○最新の冠動脈疾患の治療法

心臓の筋肉に血液を送る冠動脈が動脈硬化により細くなったり詰まったりする病気が『狭心症』や『心筋梗塞』です。メタボリックシンドロームが進行するとこれらの病気が発症します。循環器内科領域では、これらの冠動脈疾患に対してカテーテルを用いた治療を行います(図1)。冠動脈の細くなった部分をバルーン(風船)やステント(コイル状の金属筒)を使って拡張する血管内手術が行われ、目覚しい進歩を遂げています。当科ではいつでも迅速かつ適切なカテーテル治療が行える体制を整えています。

図1 狭心症のカテーテル治療



①矢印部分の冠動脈に狭窄が生じ、血液の流れが悪くなっています。
 ②ステントを挿入します。
 ③カテーテル治療により、血管はきれいに広がります。



○Rhoキナーゼの発見

私たちは、血管の収縮に深く関わる蛋白質リン酸化酵素「Rhoキナーゼ」の発見に関わり、その作用機構を明らかにしてきました。

動脈硬化の進展には、多くの血管作動性物質が関与しています。そして、最近の研究から、このRhoキナーゼが高血圧や高血糖による動脈硬化の進展にも関連している可能性が出ています。メタボリックシンドロームにおいて、Rhoキナーゼを遮断することが動脈硬化を抑制する有効な治療となる可能性があり、私たちも研究をすすめているところです。

○まず“予防”

動脈硬化性疾患で最も大切なことは、その発症の予防。食生活や適度な運動など、生活習慣の見直しをし、肥満を解消することです。メタボリックシンドロームの段階で改善しなければなりません。放置していると“動脈硬化”へ一直線。やがては動脈硬化性疾患を引き起こします。

あなたも『メタボリックシンドローム』ではありませんか？